



No.26

げんきカエル



こども病院ニュースレター

院内ボランティアの紹介

当院は、2つのボランティアグループの活動に支えられています。その2つのボランティアグループをご紹介します。

病院ボランティア35年を迎えて

神戸市生活指導研究会 会長 田中 智子

私達の神戸市生活指導研究会が、昭和50年にこども病院ボランティアを始めてから、今年で35年になりました。お手伝いの内容は変わっておりますが、同じ頃からスタートした市立西市民病院での同活動と共に、「常に心豊かな楽しい社会福祉」の一端に携われる機会を担当会員30余名が大切に守ってまいりました。



患者様の御快癒を第一にその祈りを込めて努めております。とは申せ、1日のうちの限られた時間内でのおしぼりたたみ、病棟での本読みと子ども達の遊び相手、カルテセット・押印といったささやかなお手伝いしかできませんが、せめてこの程度のことであっても、いつまでも続けていけるよう私達自身も健康に留意して頑張りたいと思っております。

私達のこの活動に対し、4年前にはコープこうべの「虹の賞」を頂き、昨年には当病院のご推薦により、県の「くすのき賞」を頂きまして、これらが些かの自信と大きな励ましにつながり、ありがたく思っております。

寄り添って

こども病院ボランティア 坂田 美知子

こども病院の募集に応じて始まったボランティア活動は8年目を迎えました。

外来では、初診手続きのための説明や代筆、赤ちゃんのお世話をしたり、検査室までの案内など、いつでも来院される方々のお手伝いができるように心を配りながら、玄関入り口に立っています。

病棟では、赤ちゃんや子ども達の病状を絶えず気遣いながら、ゆったりした気持ちで、こども達と遊んでいます。制限の多い入院生活の中で、こども達が少しでも笑い、楽しんでくれるように、日々、知恵を絞って、楽しい時間を一緒に作り出しています。

ベッド周囲にあるクッションやカバーなど、子どもにとっての必需品の縫製もボランティアの仕事です。目立たないところでの大切な働きです。

活動は継続されてきましたが、時には、ボランティアとして働きつづけることに疲弊してしまうこともあります。そのような私たちにいつも活力を与えてくれるのは、病気の子ども達の笑顔です。

育っていく子ども自身の力です。私たちにとっても大切な子ども達のそばに、いつも寄り添っていたいと願っています。



CRCって何をする人？

薬剤部 三谷 仁美

CRCという言葉をご存知ですか？

CRCとは治験(または臨床試験)コーディネーターといいます。CRCは、治験が患者様の人権を守ることや安全性を保つこと等を目的としたルール(新GCP)のもとで計画どおりに行われるように、治験に関する様々な業務を行っています。当院では、CRC業務は4名(薬剤部2名、外部委託2名)で行っています。

具体的な仕事内容は、治験に参加されている患者様の来院日の対応(診察の立会い、各検査への誘導や治験薬の説明等)や、患者様の疑問や不安などの相談に随時対応しています。また治験がスムーズに行われるように、各治験が始まる前に院内スタッ

フ向けの説明会や各部署との調整などを行っています。患者様が無事に治験を終了していただけるよう、CRCは日々緊張の連続ですが、縁の下の力持ちとして頑張っています。



「新・栄養給食管理システム」が導入になりました。

栄養指導課長 尾崎 孝秋

県立こども病院における栄養給食管理業務は、昭和63年から徐々にコンピューター管理を導入し、病院独自のソフトにより献立管理、食数管理等を行い、西暦2000年問題に対しては、平成11年度にハード及びソフト面の一部を変更し、運用してまいりました。しかし、機器の老朽化と処理能力の限界から、再三にわたり原因不明のトラブルが発生するなどしたため、平成20年度に入ってから、導入機種選定や他病院の栄養給食管理システム状況調査などを行い、新・栄養給食管理システムを平成21年4月から導入しています。



新しいシステムでは、献立作成、食数管理、発注・在庫業務、食札の発行(特殊乳はこれまでの番号管理方式からシール表示方式に変更)等が短時間にできるようになり、これまでの栄養士の事務作業(食種集計、食札の手書き、食事療養の資料作成等)の軽減や業務の効率化が図られてきております。新システムの導入により、栄養給食管理システムの円滑な運営を推進するとともに、今後はさらに、院内データの効率的な再利用を図るオーダリングシステムの導入により、一体的な管理運営を目標にして、安全で安心の食事の提供を図ってまいります。



外来・病棟にMA(メディカル・アシスタント)を導入しました

MA 木下 凡子

4月から外来・病棟でMA(メディカル・アシスタント)として勤務することになりました。

外来では、診察がスムーズに行れるように医師や看護士の補助業務をしたり、診察に必要な計測や検査の案内などを行っています。



外来MA



病棟MA

病棟では、夕方からの勤務になり患者様の夕食の配膳をしたり、寝るまでの時間を一緒に遊んだりしています。

まだまだ未熟なところはありませんが、これからみなさまの役に立てるように力を合わせてがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Concept

コンセプト

基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。



基本方針

1. 子どもの権利を重視した医療の実践
2. 安心と信頼の医療の遂行
3. 専門的な高度医療の推進
4. 地域医療・保健・福祉機関との連携
5. 親と子の健康啓発活動への貢献
6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

編集後記

5月に発生した新型インフルエンザは、想定していた以上に社会生活に影響を及ぼしました。今回の流行で、手洗い・うがいの重要性、咳エチケットなどの予防対策が広まったのではないのでしょうか。新型インフルエンザに限らず、感染症の根本として予防づけたいものです。こども病院でも病棟に安心して訪れていただけるよう努力してまいります。担当は藤中でした。

編集委員長：池田 美子
編集委員：横垣美香子
編集委員：田中亮二郎 藤中 早代 長尾 洋
高橋 政晴 谷本江利子 鍋田貴理子
沙谷 恵 西郷 明子

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-735-0910(総務課)
FAX 078-732-6980(地域医療連携室)
URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
E-MAIL: info_kch@hp.pref.hyogo.jp